

報 告 書

土木警察常任委員会は、令和7年11月6日（木）に、県内視察調査を実施しましたので、その概要を別紙のとおり報告します。

令和7年12月8日

福井県議会議長
宮 本 俊 様

土木警察常任委員会
委員長 兼 井 大

土木警察常任委員会 視察調査 概要

1 視察年月日 令和7年11月6日(木)

日程は別紙のとおり

2 出席者 別紙のとおり

3 視察内容

(1) 福井県警察学校

あいさつの後、概要説明を受け、質疑応答、現地視察を行った。

(質疑概要は別紙のとおり)

○あいさつ

福井県警察本部長 増田 美希子

○概要説明

福井県警察学校長 西森 直樹

(2) 足羽川ダム

あいさつの後、概要説明を受け、質疑応答、現地視察を行った。

(質疑概要は別紙のとおり)

○あいさつ

国土交通省近畿地方整備局足羽川ダム工事事務所長 橋爪 翔

○概要説明

国土交通省近畿地方整備局足羽川ダム工事事務所

調査設計課長 松尾 嘉和

土木警察常任委員会 県内視察調査日程表

実施日 令和7年11月6日(木)

時 間	行 程
10:00	議事堂 発 (バス)
10:20	福井県警察学校 (説明会場) 福井県警察学校 (所在地) 福井県福井市荒木新保町5-9 ○あいさつ ○概要説明「警察学校における教育について」 質疑応答 ○現地視察
11:30	同地発
11:40 12:30	昼食 (福井市内)
13:15	足羽川ダム (説明会場) ダムギャラリーあすわ (所在地) 今立郡池田町小畑12-4 ○あいさつ ○概要説明「足羽川ダムの事業進捗状況について」 質疑応答 ○現地視察
15:00	同地発
16:00	議事堂 着 (解散)

土木警察常任委員会 県内視察調査出席者名簿

【派遣委員】	(氏名)	(期別)
委員長	兼井 大	2期
副委員長	時田 和一良	1期
委員	小堀 友廣	3期
//	野田 哲生	2期
//	山浦 光一郎	2期
//	山岸 みつる	1期
	(委員	計6名)

【地係議員】

福井県警察学校関係 (福井市選挙区)

西本 恵一	3期
渡辺 大輔	2期
中村 綾菜	1期
福野 大輔	1期

足羽川ダム関係 (越前市・今立郡・南条郡選挙区)

三田村輝士	1期
三宅 わたる	1期

(議員 計6名)

【議会局】

議事調査課	主任	青木 千香
//	企画主査	高橋 康代

土木警察常任委員会 県内視察 質疑概要等

1 福井県警察学校

福井県警察学校における教育について

I 概要説明

- ・ 学校教養には、基本課程と専門課程があり、原則、入寮制で行われる。
- ・
- 基本課程について
- ・ 基本課程は、採用者に対する教育である。職務倫理、法学、基本実務、体育・術科、教科外活動があり知識、技能、体力、気力の充実を図っている。
- ・ 教養期間は大学卒程度で 15 か月、高校卒程度で 21 か月となっており、4つの課程（初任教養、職場実習、初任補修教養、職場実習）がある。
- ・ 初任教養が修了すると一旦卒業し、職場実習生として交番に配置され、その後、初任補修科生として再入校し、2回目の職場実習が終了すると、一人前の警察官として扱われる。
- ・ 警察学校の一日は、朝 6 時 30 分の起床後に行われる日常点呼から始まる。国旗を掲揚し、体操やランニング等を行い、基礎体力向上に努めている。
- ・ 授業は 1 時限 80 分間で、1 日に 5 時限。教場での座学のほか、職務質問や交通検問など、実際に車を使用した実戦的な訓練も行っており、わかりやすさと身につく教養を意識し、体験型、参加型事業を増やして、即戦力となる警察官の育成に努めている。
- ・ 術科には、柔道、剣道、逮捕術および拳銃があり、逮捕術の訓練では、相手の状況に応じて、必要最小限の実力行使で相手を制圧できるよう、繰り返し訓練を行っている。拳銃訓練では、射撃のほか、誤って発射させることなどがないように、拳銃取扱いの基本を教え込む内容となっている。警察礼式では、装備品点検の正確な動作のほか、ほかの警察官と揃った動作ができるよう繰り返し訓練を行っている。
- ・ 部外講師による英会話、茶道、華道などの授業を取り入れ、人間性豊かな人格の形成を図るための教養も行っている。
- ・ 午後 10 時に人員確認、異常の有無を教官に報告し、翌日に向けた指示を受け、午後 11 時就寝となる。

○学校教養の計画について

- ・ 学校教養の計画は、毎年見直しを行っており、令和4年度の安倍元首相銃撃事件を受け、隙のない警護体制を構築するため、令和5年度から初任補修教養において警護研修を行い、警護現場の警戒員としての対処能力を高めている。令和6年度から、初任科生は卒業までに警察独自に行っているサイバー対処能力検定の初級を受験し、特殊詐欺をはじめとするSNSを利用したサイバー犯罪の対処能力の向上を図っている。検定のレベルは、ITパスポート試験と同程度で、サイバーはすべての部門における基礎知識として必要であり、警察に入ってからすぐに知識として取得する必要があることから、採用後間もない時期に検定の受験を行っている。
- ・ 採用後5年目までの若手警察官に対しては、早期戦力化を目標とした教養が引き続き行われる。

○専門課程について

- ・ 複雑・多様化する警察事象に対処する専門知識や技能を習得させるため、現場で勤務する警部補以下の警察官や同相当職の警察職員を対象としている。毎月、専門課程の入校者が入寮し、専門知識を有する警察官、警察職員、部外講師が講義を行って、専門的な知識の取得に努めている。

II 質疑応答

○委員 ホーム制度とは何か。

○学校長 少人数のグループに分けて、きめ細やかに支援できるようにする制度である。ホームは、初任科生10人程度で構成されている。学校生活での悩みなどの相談体制を構築したり、ホームごとに競って団結心を養ったりするための制度である。

○委員 前半の職場実習は交番に行くが、後半の実習先も交番か。

○学校長 前半の職場実習は、2か月の交番勤務の後、刑事課で1か月捜査実習をする。後半の実習は、交通、生活安全、留置など全般にわたっている。すべての業務を経験して、一人前の警察官になる準備をする。

○委員 4月から15か月間だと7月終了だが、正式な配置は8月、9月ごろか。

○学校長 その通り。初任総合検討会という研修会を経て、採用時教養が終了となり、各所属において単独勤務ができるようになる。

- 副委員長 採用年齢が引き上げられたが、研修は年齢にかかわらず同じか。
- 学校長 同じである。

- 副委員長 今年度からの再採用制度で採用された方は警察学校に入るのか。
- 教務担当校長補佐 採用時教養が終わってれば、入校せず直接配置される。

- 副委員長 土日は休みか。
- 学校長 入校して1か月間は外出禁止となり、警察官の適性や絆を深める。その後は、金曜夜に帰宅し、日曜夜に戻ってくる生活になる。

- 委員 自衛隊員は宣誓をすると聞いたことがあるが、警察も宣誓をするのか。
- 学校長 入校式のときに宣誓する。

- 委員 学校の間をやめてしまう方もいるのか。
- 学校長 毎年、志半ばでやめてしまう方はいる。特殊な職場なので、集団生活になじめないという理由が多い。

- 委員 スマートフォンは自由に使えるか。
- 学校長 日中は各自、自主的に保管しており、お昼の休憩時間や授業終了後から就寝までは自由に使える。

- 委員 柔道と剣道は希望制か。逮捕術は全員か。
- 学校長 経験者や希望で分けており、同じ程度の人数になるようにしている。逮捕術は全員である。

Ⅲ 施設内視察

剣道場にて、通常点検の様子を見学、装備品について説明を受けた後、寮内を視察した。

(※現場視察をしながら行った質疑については省略)

2 足羽川ダム

足羽川ダム工事の進捗状況について

I 概要説明

○ダム工事の概要について

- ・ 足羽川ダムは、今立郡池田町に建設している、洪水調整専用の流水型ダムである。重力式コンクリートダムで堤高 96 メートル、総事業費は 2,500 億円、工期は昭和 58 年度から令和 11 年度となっている。
- ・ 令和 7 年当初予算は約 182 億円、事業内容は、本体工事、用地補償、付替道路工事、導水トンネル工事、分水施設関連工事である。
- ・ 進捗率について、令和 7 年 9 月末時点で用地取得は約 99% で今年度中には完了予定、付替工事は県道 75.3%、町道は 40.9% となっており、分水施設は掘削が 53.2%、打設が 40.6%、導水トンネルの掘削は 8 月に完了している。ダム本体工事は、令和 7 年 10 月末で 86% となっている。
- ・ 令和 9 年に堤体完成、令和 10 年から 11 年にかけて試験湛水を行い、共用される予定。

○個別工事について

- ・ 水海川導水トンネルは、水海川側から掘削して、来年春頃貫通予定。
- ・ 水海川分水施設は、水海川本川に整備している施設で、4 年度から本川貯砂ダム工事、6 年度から左岸貯砂ダム工事を行っており、7 年度から分水堰の工事に着手する予定。

○ダム本体建設工事における DX の活用について

- ・ 本体工事では、ダムコンクリートの自動打設システム、コンクリートの締固め管理システムを活用しており、打設時間の短縮、省人化、熟練技術者不足の解消、進捗状況の見える化などの効果を得ている。

○環境影響評価について

- ・ 平成 25 年に環境影響評価書を作成し、環境保全対策を行っている。例えば、工事による振動や騒音で希少猛禽類のクマタカの繁殖を阻害しないよう騒音を抑制したり、植物の保全として、工事に影響のない場所へヤマシヤクヤクなどを移植するなどを行っている。

○インフラツーリズムについて

- ・ 世界に誇るべき土木技術や優れた土木構造物などを観光資源として活用す

るもので、日本最大級の流水型ダムである足羽川ダムと、池田町の地上高日本最大級のメガジップラインとあわせて日本最大のツアーとしたり、池田町の観光資源を後押ししていければと町を含めて協議している。

- ・ 現場見学会は月2回実施、個別に行政機関や教育機関も案内している。令和6年の来場者数は1,390人だった。
- ・ 令和6年度からは、ナイトツアーを実施、令和7年度は、民間旅行会社とタイアップして有料ツアーも実施した。
- ・ ユーチューブで施工状況、コンクリート打設状況を配信している。

II 質疑応答

- 委員 洪水調整専用のダムにした理由はなにか。
- 調査設計課長 地元の要望を確認して水利用の観点では活用しないとのことだったので、洪水調整専用のダムになった。

- 委員 福井の河川（九頭竜川、足羽川、日野川）の水位は、福井市街地より高く、堤防がないとあふれてしまう状態になっているのは、なぜか。

- 調査設計課長 昔からの地形で、福井平野が河川より低い位置にある。

- 委員 整備メニュー完成により水位が2.5メートル低下するとあるが、どういうことか。

- 調査設計課長 河床掘削と足羽川ダムの完成を併せて整備メニューの完成としている。福井豪雨の後に、福井県が河床掘削を行い、1.6メートル水位が低下しており、足羽川ダムの完成によりさらに0.9メートル水位が低下するので、合計で水位が2.5メートル低下する。

- 委員 事業ベースで87%の進捗率だが、事業費ベースだと2,500億円のうちどれくらいまで到達しているのか。

- 調査設計課長 事業費は令和7年度で1,630億円くらいに到達している。

- 委員 試験湛水は令和10年からやるということによいか。

- 調査設計課長 試験湛水は、令和10年の秋ごろに開始し、令和11年春ごろ安全性を確認して、ダム自体が完成する。雨が降っていなくても満水にして、周辺の異常がないか確認する。

- 議員 工事に従事している人は何人くらいか。
- 調査設計課長 ダム本体は1日当たり350人くらい。昼300人、夜50人くらいである。

- 議員 県内、県外どちらの業者が多いか、割合はわかるか。
- 調査設計課長 本体工事はおそらく半分以上が県外業者で、周辺に住んで工事をしている。

- 議員 完成後の見学はどこを起点にすることを想定しているか。池田町は、足羽川ダムもコンテンツにしたいと考えているようだが。
- 調査設計課長 今、池田町も含めて、完成後の地域振興を検討している。例えば、近辺に徳山ダム、真名川ダムなどもあるのでダムツアーや、池田町内のかずら橋などを入れたツアーも検討したい。

- 議員 バスや車の駐車場も計画に含めて考えているか。
- 調査設計課長 ダム天端の管理棟横の展望スペースのようなところに駐車場の整備を考えている。

Ⅲ 現場視察

ダム右岸天端、堤体敷上流側の工事現場を視察した。
(※現場視察をしながら行った質疑については省略)

土木警察常任委員会 県内視察

(警察学校)



(足羽川ダム)



